

## 高齡化への対策

2020年末時点で、中国国内の65歳以上人口は約1億8000万人となり、35年には3億1000万人になると推定されています。高齢化に伴い、空き巣老人をはじめ、国や個人レベルにおいて、様々な養老問題が深刻化することが予想されます。

近年、インターネットの急速な発展に伴い、介護の話題がネット上で拡散されるようになりました。業界関係者からは、人間には出来ない様々なことを成し遂げてくれるスマートテクノロジーが、養老産業における新たなソリューションとして期待を寄せています。

車いすまたは寝たきりなどの身体機能に障害のある高齢者は4000万人超という統計があります。仮に人員配置を3対1とした場合、1300万人以上の介護士が必要となりますが、現在有資格者はわずか約30万人とどまり、マンパワーが圧倒的に不足しています。

このような状況のなか、最近ではテクノロジーを活用した製品が開発されています。

神経性疾患など的高齢者の可動域能力データを蓄積し、最適な支援を更にする機能を歩行支援ロボット、独居高齢者の居室温度や湿度を離れて住む子供がリアルタイムで

確認し、火事などの事故防止に繋げるサービスなどがあります。

浙江省寧波市のある村では、スマート機能を搭載したネックレスやプレスレットを村民に装着してもらい、担当部署

が村民を見守る取り組みが推進されています。また、天津市では、区内に住む約5000人の独居高齢者を対象に、音声合成(TTS)技術を使った自動音声による安否確認サービスを毎朝8時に実施しています。応答しない場合には地域担当者やボランティアが自宅へ

## 中国の高齡者マーケット

～介護・不動産事業の行方～



ゲストハウス総経理  
稲田義人

著者プロフィール  
ゲストハウス総経理。中国事業に携わって7年、介護職員養成学校の立ち上げや日本式介護研修の実施、また、日系介護企業を集めての上海シニア産業フェアの主催等、上海シニア事業全てを総指揮。

出向き安否確認を行います。政府は近年、介護士育成に注力していますが、労働力人口がピークを越えたいま、加速度的な増員は見込めません。今後、AIや5G、IoTなどを駆使したハイテク技術をさらに期待が集ま